

岡山県感染症週報 2014 年 第 46 週 (11 月 10 日～ 11 月 16 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

12 月 1 日は世界エイズデーです。

◆2014 年 第 46 週 (11/10～11/16) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 44 週	2 類感染症	結核	2 名 (80 代 男 1 名・女 1 名)
	4 類感染症	レジオネラ症	1 名 (50 代 男)
	5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 名 (80 代 女)
		梅毒	1 名 (30 代 男)
第 45 週	2 類感染症	結核	1 名 (90 代 男)
第 46 週	2 類感染症	結核	5 名 (20 代 女 1 名、60 代 男 1 名、70 代 男 2 名、80 代 女 1 名)
	5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 名 (90 代 女)

■定点把握感染症発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 411 名 (定点あたり 6.52 → 7.61 人) の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、県全体で 5 名 (定点あたり 0.11 → 0.06 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 67 名 (定点あたり 0.83 → 1.24 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 咽頭結膜熱は、県全体で 15 名 (定点あたり 0.20 → 0.28 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

- 12 月 1 日は『世界エイズデー【AIDS IS NOT OVER ～まだ終わっていない～】』です。
岡山県では『世界エイズデー (12 月 1 日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動及び夜間等の HIV 抗体検査を実施します。来週 (第 47 週 週報) は、HIV の特集を掲載する予定にしています。
- 感染性胃腸炎**は、県全体で 411 名 (定点あたり 6.52 → 7.61 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、備北地域 (11.25 人)、岡山市 (9.71 人)、倉敷市 (9.64 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、0-2 歳で 37% と最も多く、5 歳以下の乳幼児が全体の 62% を占めています。第 45 週全国集計によると、都道府県別の定点あたり報告数は、香川県 (9.14 人)、大分県 (6.64 人) につづき、岡山県 (6.52 人) が全国で 3 番目に多くなっています。流行シーズンである冬季に向けて、今後の発生状況に注意するとともに、手洗いや下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防に努めましょう。この感染症は、通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。ノロウイルスによる食中毒予防に関しては、岡山県ホームページ (生活衛生課) 『[食中毒 \(ノロウイルス\) 注意報を発令中です](#)』をご覧ください。
- インフルエンザ**は、県全体で 5 名 (定点あたり 0.11 → 0.06 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
- RS ウイルス感染症**は、県全体で 67 名 (定点あたり 0.83 → 1.24 人) の報告があり、前週より増加しました。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
- 咽頭結膜熱**は、県全体で 15 名 (定点あたり 0.20 → 0.28 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、真庭地域 (3.00 人)、美作地域 (1.00 人)、備中地域 (0.43 人) において患者報告がありました。特に真庭地域 (定点あたり 1.50→3.00 人) では、定点あたり報告数が増加し、発生レベル 3 となっています。この感染症は、発熱、咽頭炎、結膜炎を主症状とする小児の急性ウイルス性感症です。プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれており、通常夏季を中心に流行していましたが、最近では冬季にも報告数の増加がみられます。しっかり手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↗	★★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	↗	★★★★★	水痘	↘	★★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↘	
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↗	
ヘルパンギーナ	↘	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↘	
マイコプラズマ肺炎	↗	★	クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗				

【記号の説明】 ・前週からの推移： ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↗ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

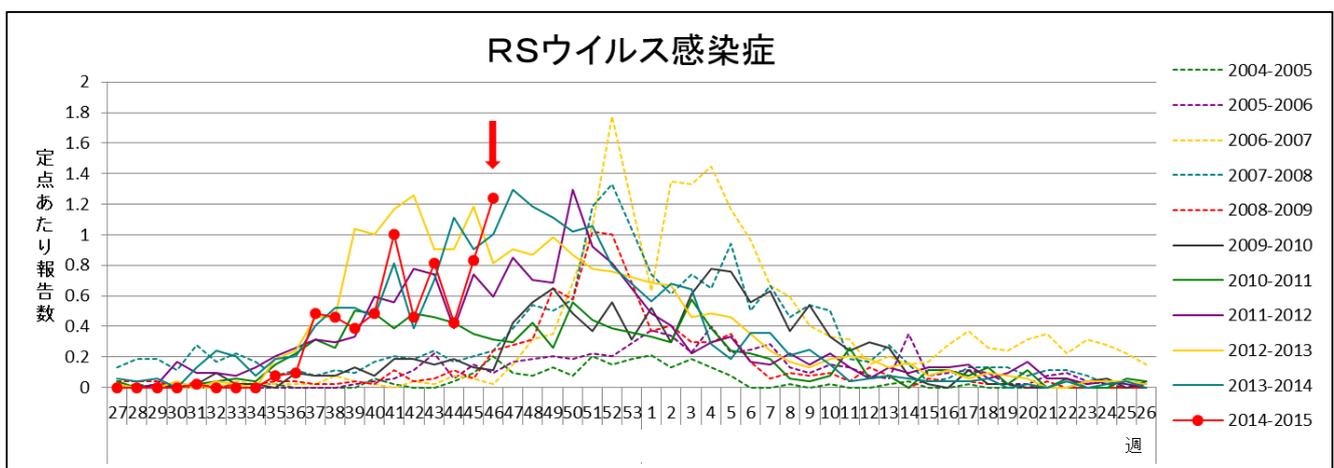
・発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成25年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症 RSウイルス感染症

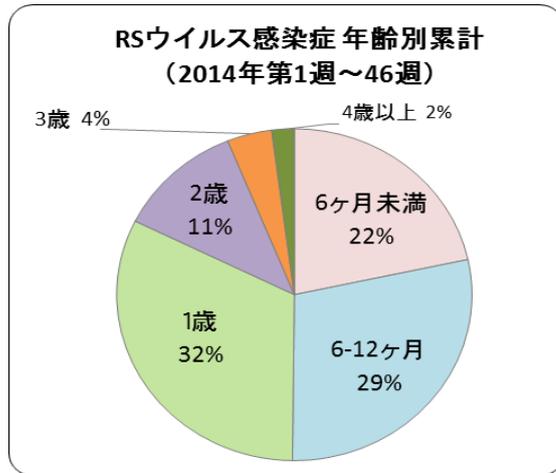
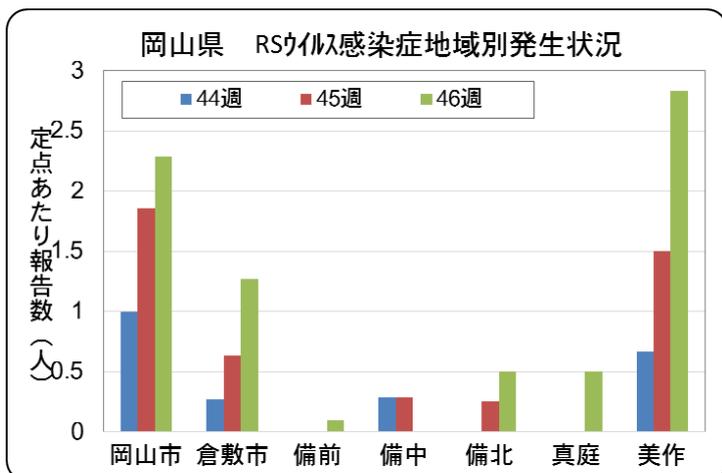
【岡山県の発生状況】



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

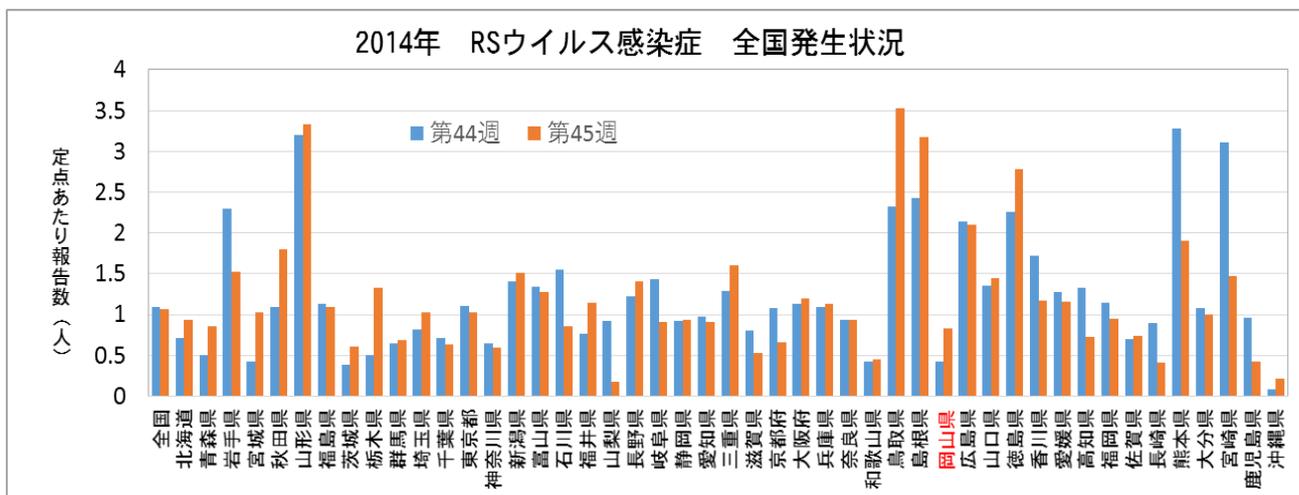
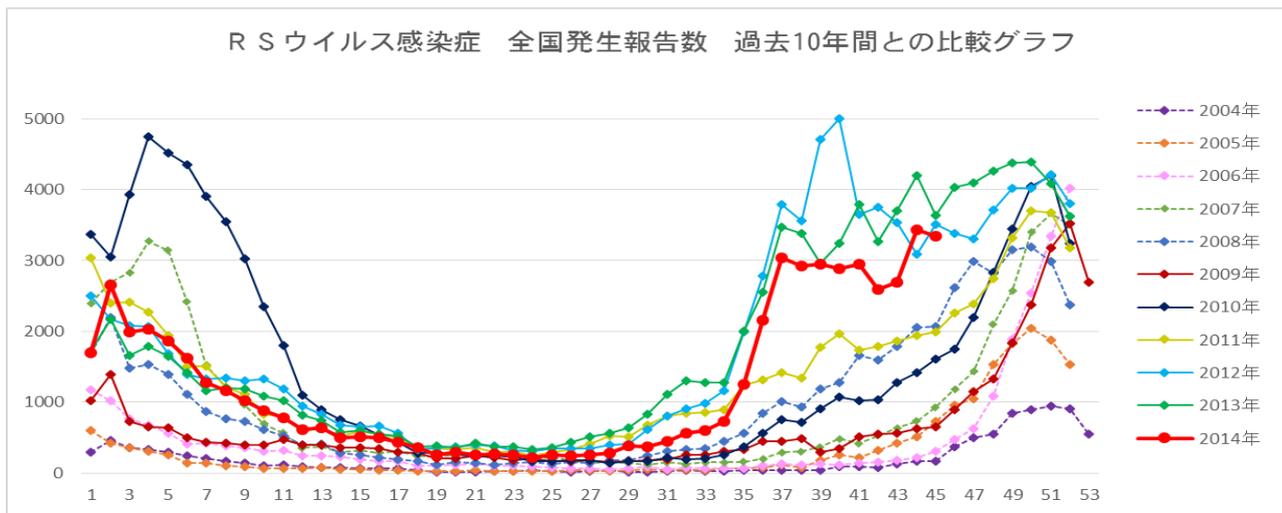
RSウイルス感染症は、県全体で67名（定点あたり0.83→1.24人）の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して、最も多くなっています。地域別では、美作地域（2.83人）、岡山市（2.29人）、倉敷市（1.27人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、2014年第46週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の51%、ついで1歳が32%となっています。

この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあり、症状が悪化しても平熱か 38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのが鳴るなどの症状があるときは、早めにかかりつけの医療機関を受診してください。今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。



【全国の発生状況】

第45週 (11/3~11/9) 全国の患者報告数は、前週よりわずかに減少しましたが、10年間の同時期と比較して多い状態で推移しています。都道府県別では、鳥取県 (3.53人)、山形県 (3.33人)、島根県 (3.17人) の順で定点あたり報告数が増えており、近隣県でも多くの患者が報告されています。



【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。この感染症は、例年冬季に流行がみられていましたが、近年では夏頃から患者が報告されるようになりました。感染後2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの風邪症状が現れます。約70%の乳児が、1歳になるまでにRSウイルスに感染し、その約3割が肺炎や細気管支炎を引き起こします。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以下の乳児においては、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びて、ウイルスを吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり舐めたりすることなどによる、間接的な接触感染で感染します。

【予 防】

RSウイルスの再感染では、風邪のような軽症であることが多いため、RSウイルスに感染していることに気づかずに、人にうつしてしまうことがあります。そのため、せきなどの呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り1歳以下の乳幼児との接触を避けることが感染予防に繋がります。風邪をひいたらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳幼児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳幼児への感染予防に努めましょう。

【治 療】

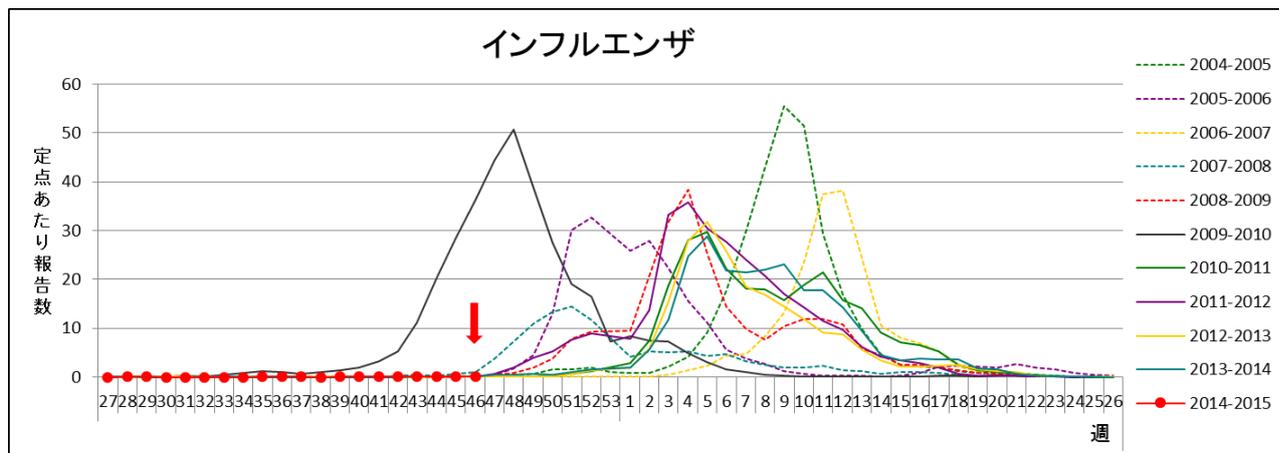
特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)
[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

インフルエンザ週報 2014 年 第 46 週 (11 月 10 日 ~ 11 月 16 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 5 名の発生がありました (84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校の臨時休業、入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、倉敷市で 4 名、備中地域で 1 名の報告があり、県全体では 5 名 (定点あたり 0.11 → 0.06 人) の発生となりました (84 定点医療機関報告)。県内の発生は、まだ散発的です。

第 45 週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は 0.22 人であり、3 週連続で増加しています。長崎県では、インフルエンザの流行開始の目安となる「定点あたり 1 人」を超えました。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、全国ではインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業も増加しています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

インフルエンザにかからないようにするには

1. 流行前に、予防接種を済ませましょう。

- ・ワクチンによる効果が出現するまで、2 週間程度かかることから、**12 月中旬までには予防接種を済ませましょう。**
- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・流行するウイルスの型が変わるため、毎年、接種することが望まれます。

2. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・外から帰ってきたときには手洗い・うがいを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・乾燥しやすい室内では、加湿器などで適度な湿度 (50~60%) を保つことも効果的です。
- ・体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を日頃から心がけましょう。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大切です。

- ・せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット*を行いましょう。
- ・同居する他の家族、特に重症化しやすいお年寄りや小さな子ども、妊婦、持病のある方などには、なるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・患者さんと接するときは、念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。

※せきエチケットとは

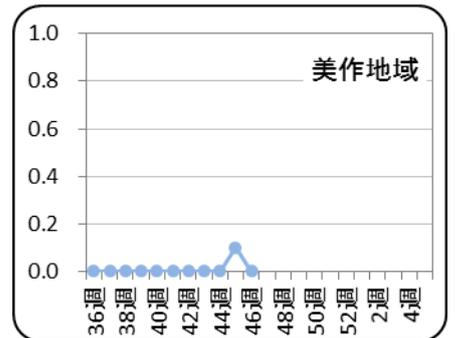
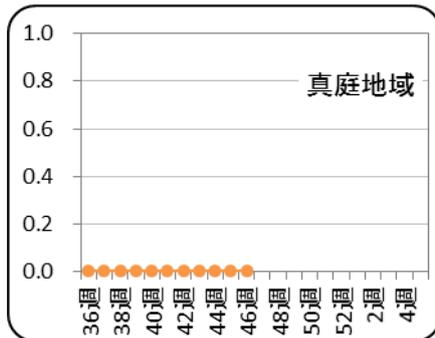
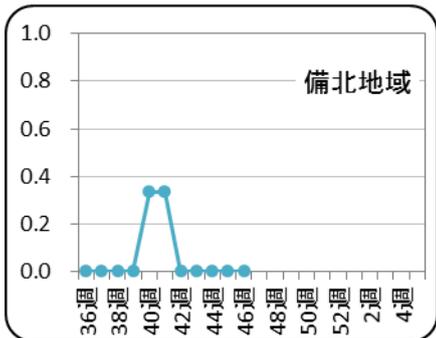
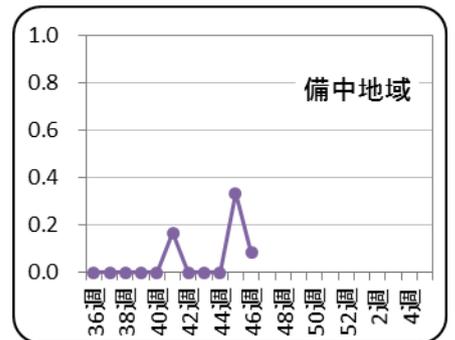
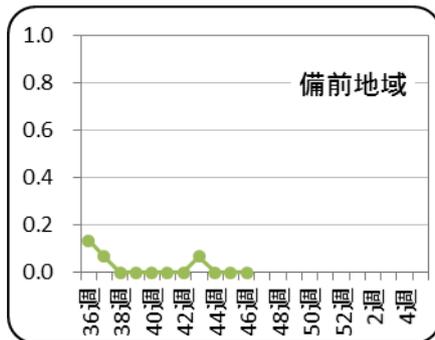
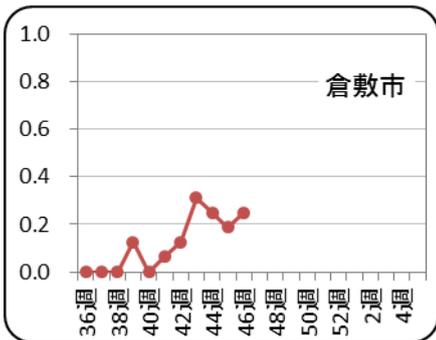
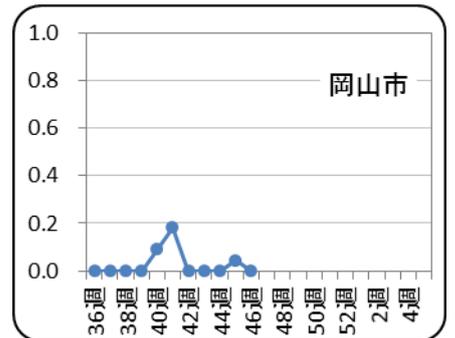
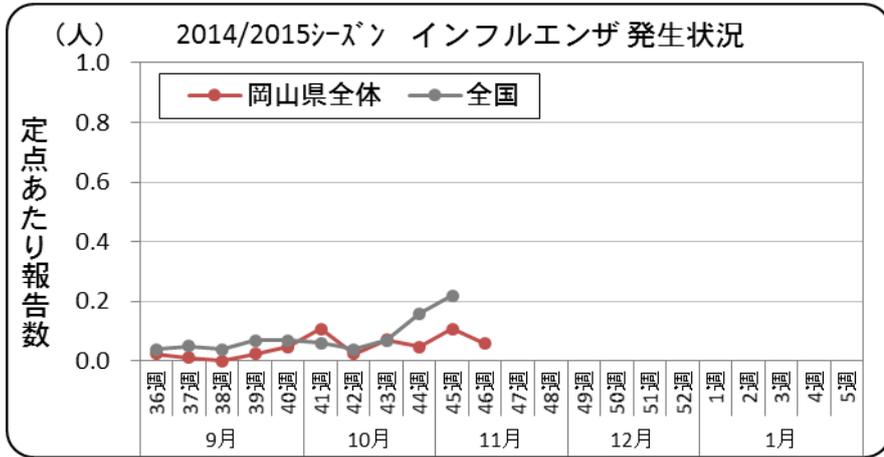
人に向かって、せきやくしゃみをしないことです。とっさにせきやくしゃみが出そうな時は、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで、口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時は、マスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュは、すぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	5	↓	備 中	患者数	1	↓
	定点あたり	0.06			定点あたり	0.08	
岡山市	患者数	0	↓	備 北	患者数	0	→
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	4	↗	真 庭	患者数	—	→
	定点あたり	0.25			定点あたり	—	
備 前	患者数	0	→	美 作	患者数	0	↓
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.00	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
 1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↗



2. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	11	—	10	—	1	—	—	—	—	—	1	H26.10.21
岡山市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
倉敷市	—	11	—	10	—	1	—	—	—	—	—	1	H26.10.21
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第46週：0施設

累計：1施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	0	1	—	—	—	—	—	—

保健所別報告患者数 2014年 46週 (2014/11/10～2014/11/16)

2014年11月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当										
インフルエンザ	5	0.06	-	-	4	0.25	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	67	1.24	32	2.29	14	1.27	1	0.10	-	-	2	0.50	1	0.50	17	2.83
咽頭結膜熱	15	0.28	-	-	-	-	-	-	3	0.43	-	-	6	3.00	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0.70	18	1.29	16	1.45	-	-	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	411	7.61	136	9.71	106	9.64	59	5.90	27	3.86	45	11.25	4	2.00	34	5.67
水痘	54	1.00	22	1.57	6	0.55	8	0.80	9	1.29	3	0.75	-	-	6	1.00
手足口病	18	0.33	12	0.86	1	0.09	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	18	0.33	11	0.79	6	0.55	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	10	0.19	3	0.21	1	0.09	4	0.40	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 46週 (2014/11/10～2014/11/16)

2014年11月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当										
インフルエンザ	5	0.06	-	-	4	0.25	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	15	0.28	-	-	-	-	-	-	3	0.43	-	-	6	3.00	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0.70	18	1.29	16	1.45	-	-	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	411	7.61	136	9.71	106	9.64	59	5.90	27	3.86	45	11.25	4	2.00	34	5.67
水痘	54	1.00	22	1.57	6	0.55	8	0.80	9	1.29	3	0.75	-	-	6	1.00
手足口病	18	0.33	12	0.86	1	0.09	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	10	0.19	3	0.21	1	0.09	4	0.40	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第46週 2014/11/10～2014/11/16)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	67	19	10	23	9	3	1	2	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	15	-	1	2	4	3	-	2	1	-	-	-	-	2	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	-	-	3	4	4	3	6	7	4	2	5	-	-	
感染性胃腸炎	411	14	31	58	47	46	31	27	14	15	19	10	33	11	55
水痘	54	-	3	8	12	9	3	9	1	4	2	2	1	-	-
手足口病	18	-	-	5	7	2	-	3	-	-	-	1	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	18	-	5	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	10	-	-	-	-	2	1	2	1	2	-	2	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

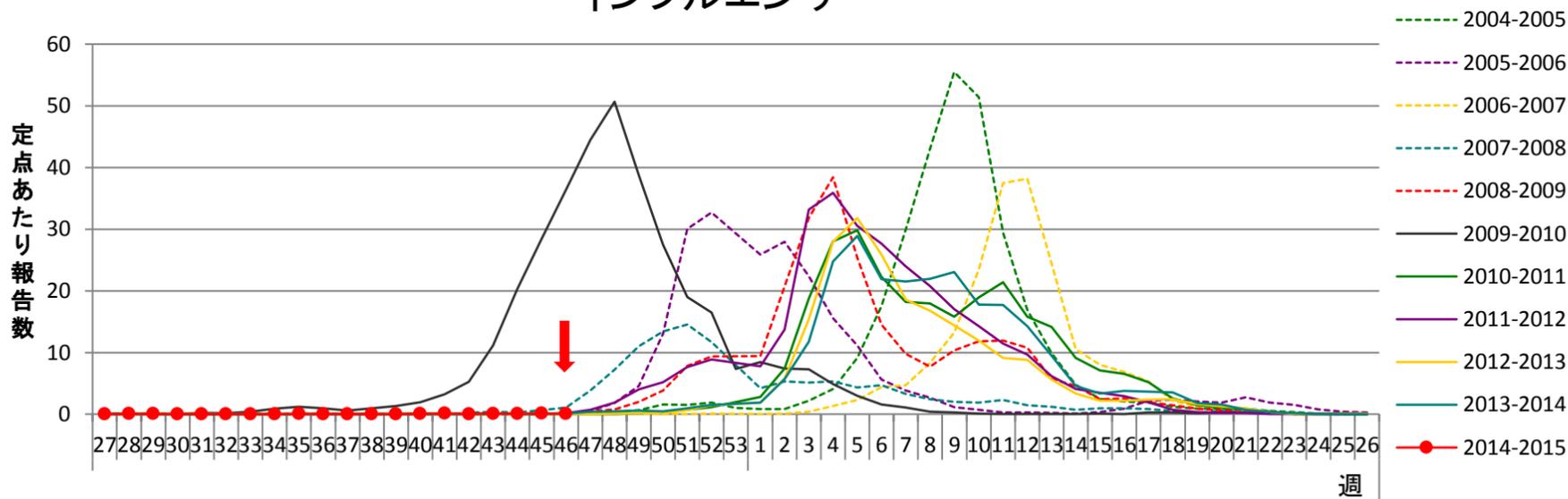
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

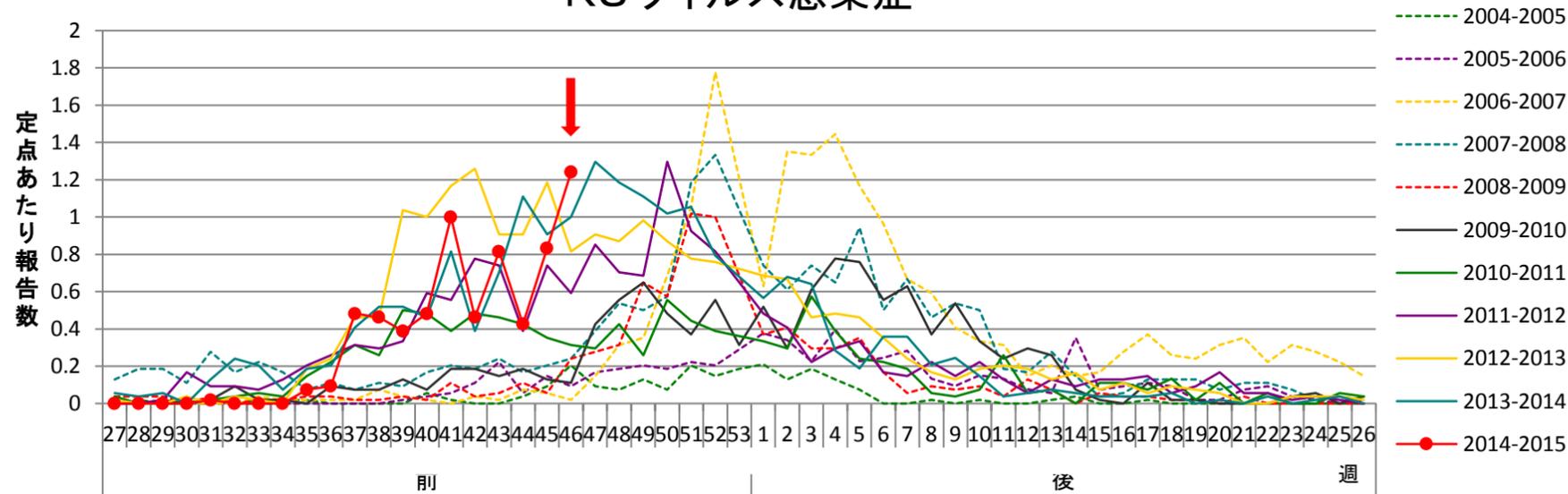
2014年 46週

分類	疾病名	2014			疾病名	2014			疾病名	2014		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	5	324	358	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	68	87
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	7	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	-	デング熱	-	1	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	4	2	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	1	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	27	24	レプトスピラ症	-	-	2
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	9	20	ウイルス性肝炎*3	-	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	7	-
	急性脳炎*4	-	9	5	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	3	後天性免疫不全症候群	-	19	18	ジアルジア症	-	-	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	20	20
	水痘(入院例に限る。)	-	3	-	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	16	8
	播種性クリプトコックス症	-	-	-	破傷風	-	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	1	風しん	-	2	76	麻しん	-	6	3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-

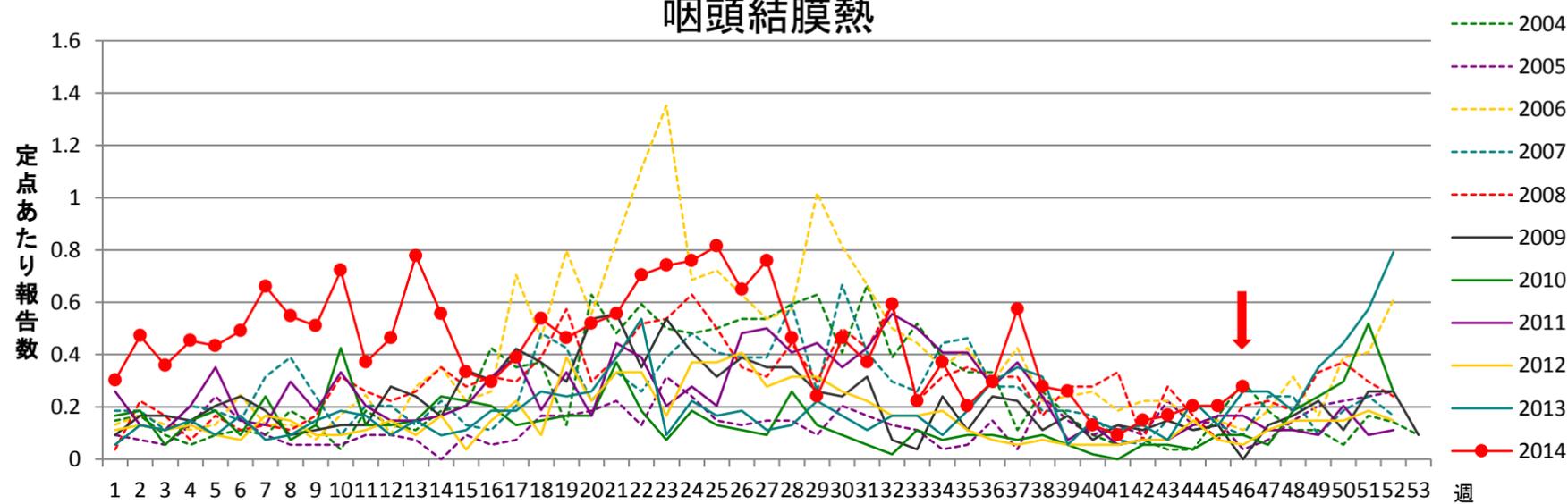
インフルエンザ



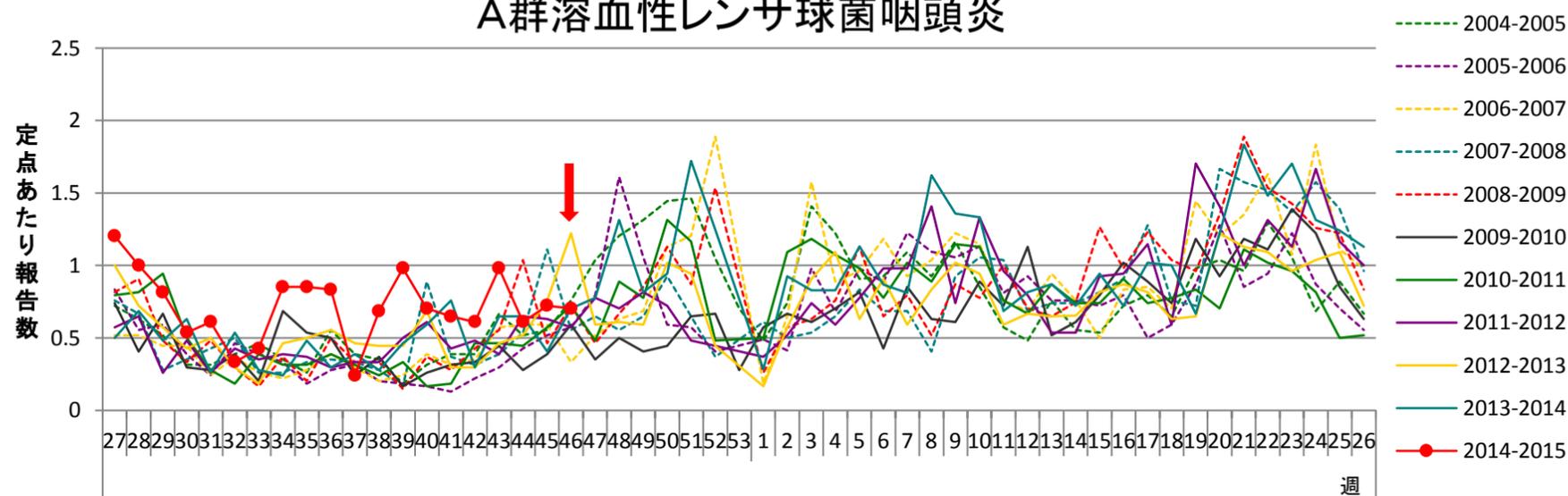
RSウイルス感染症



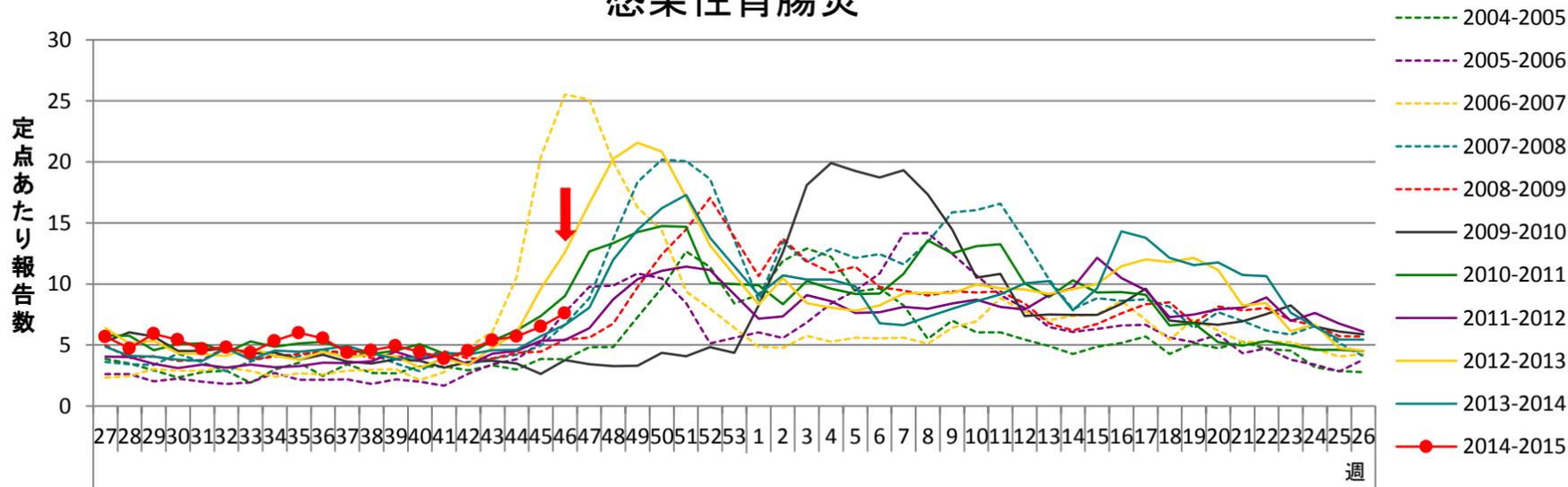
咽頭結膜熱



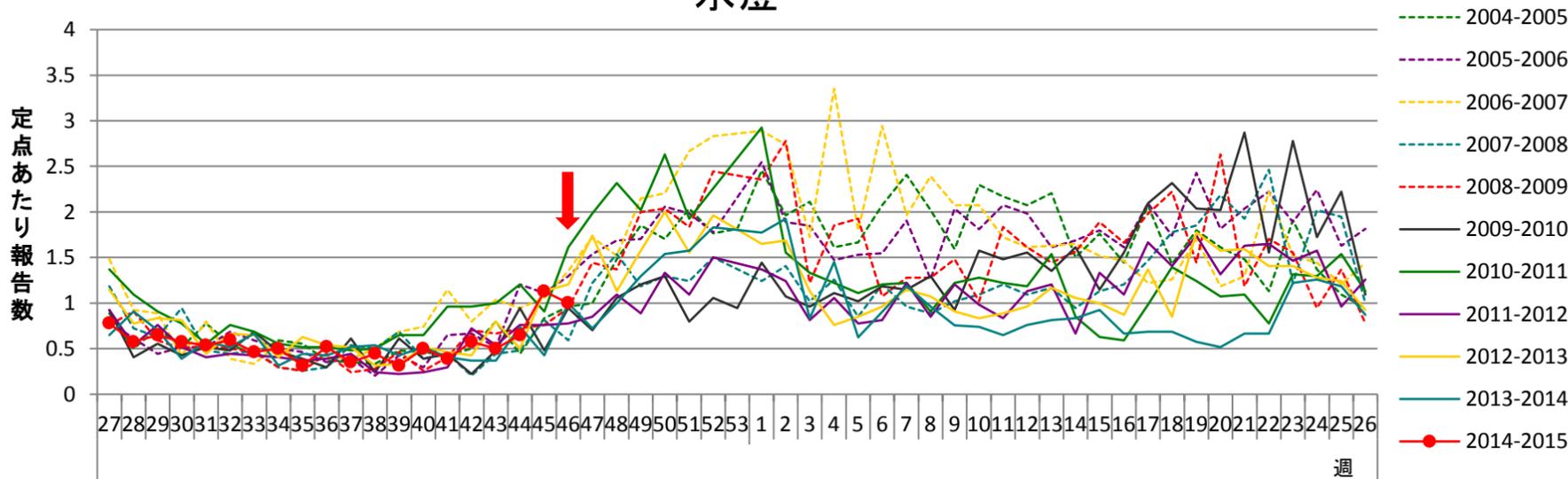
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



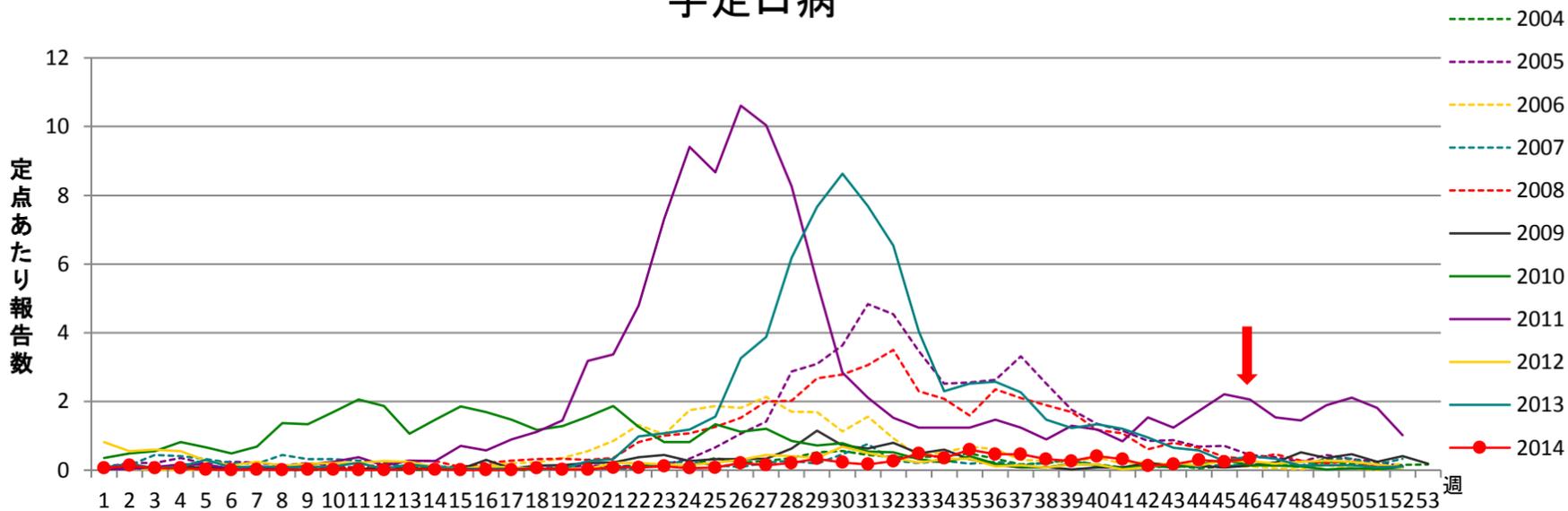
感染性胃腸炎



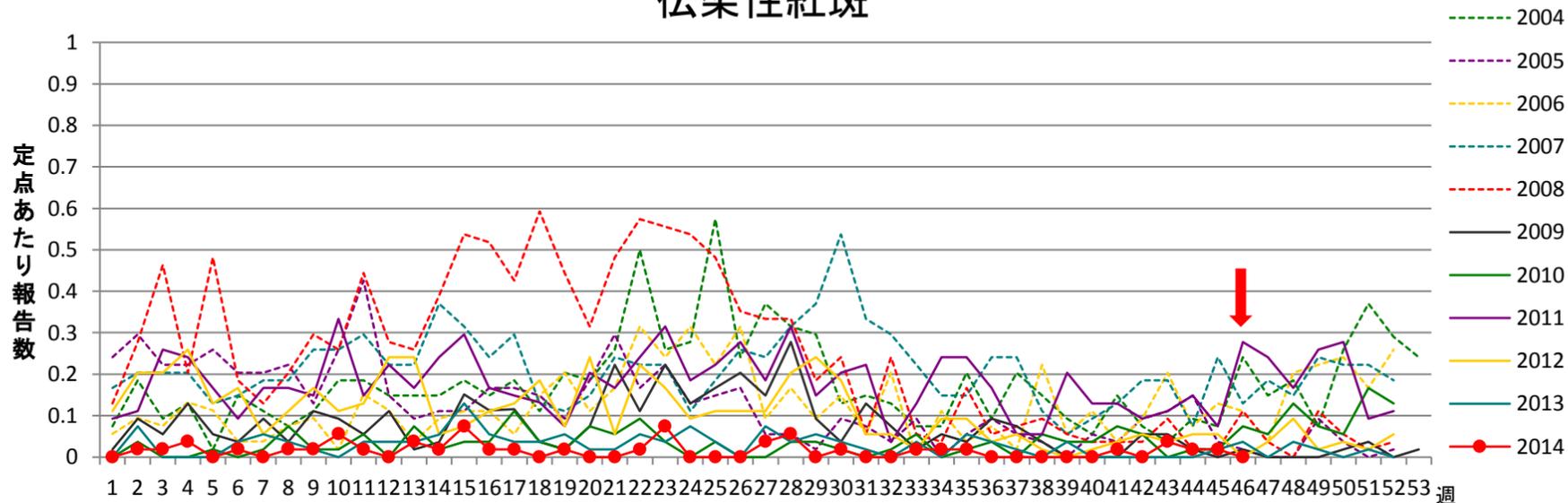
水痘



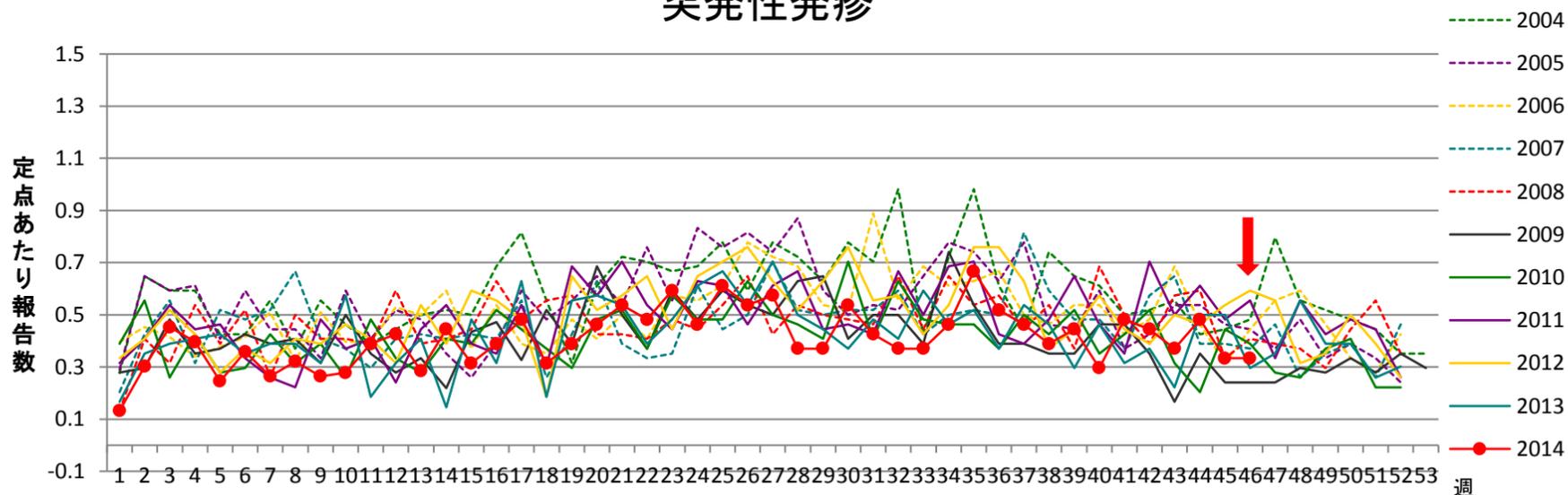
手足口病



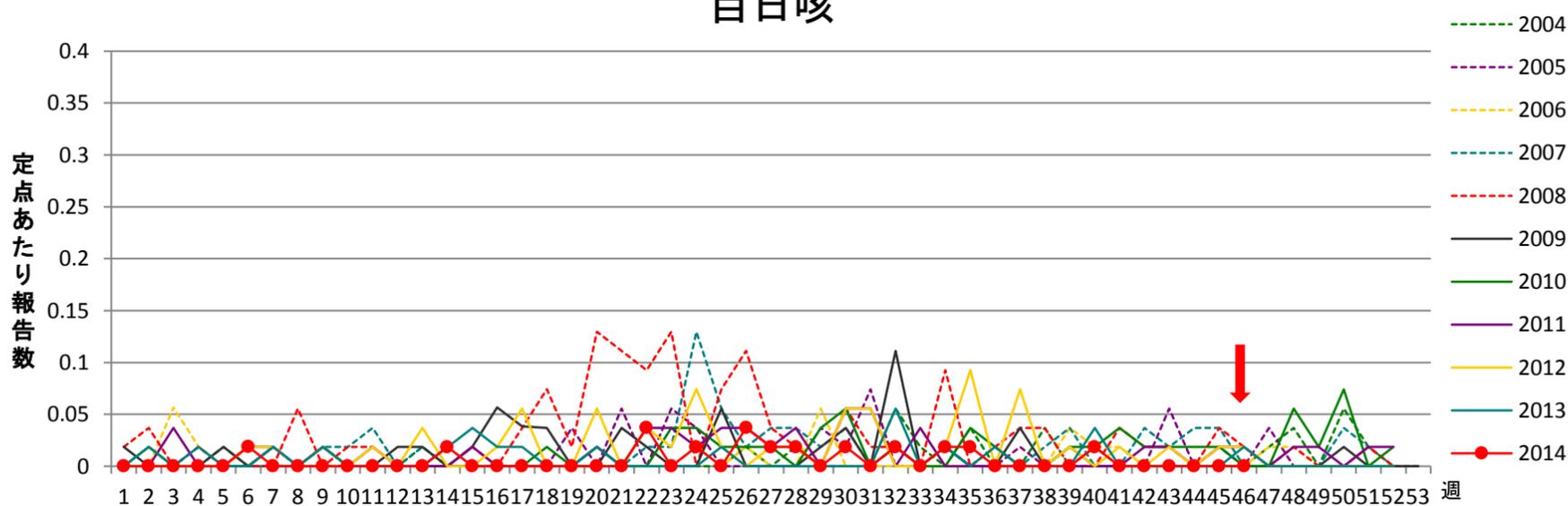
伝染性紅斑



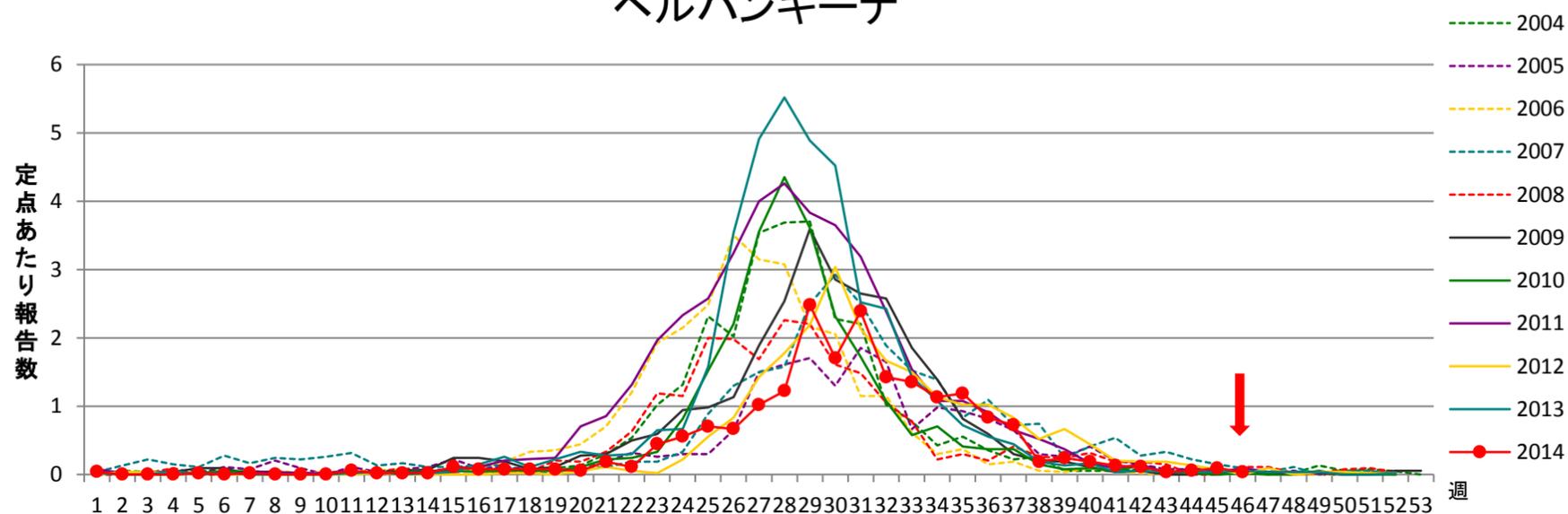
突発性発疹



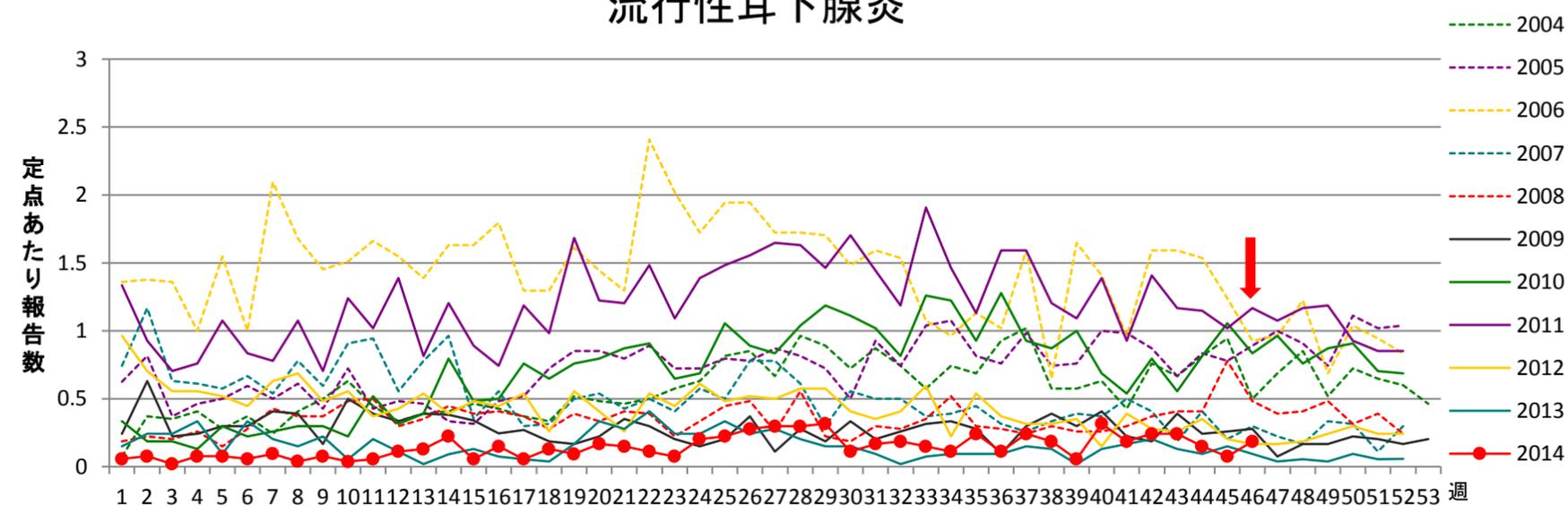
百日咳



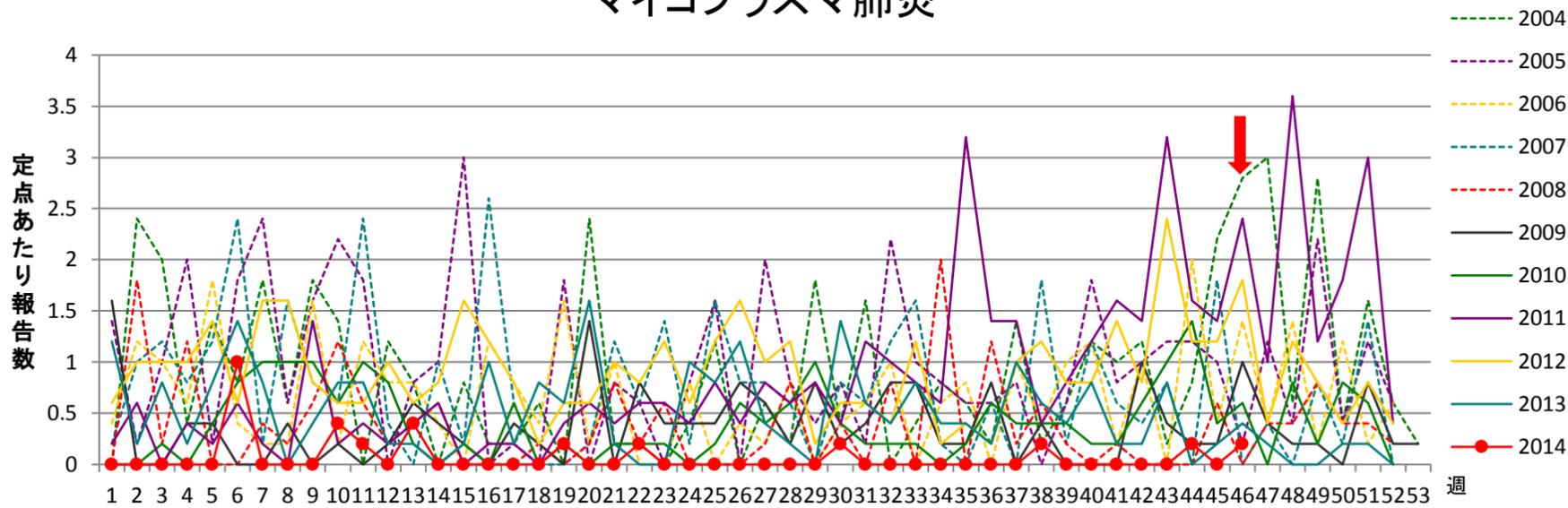
ヘルパンギーナ



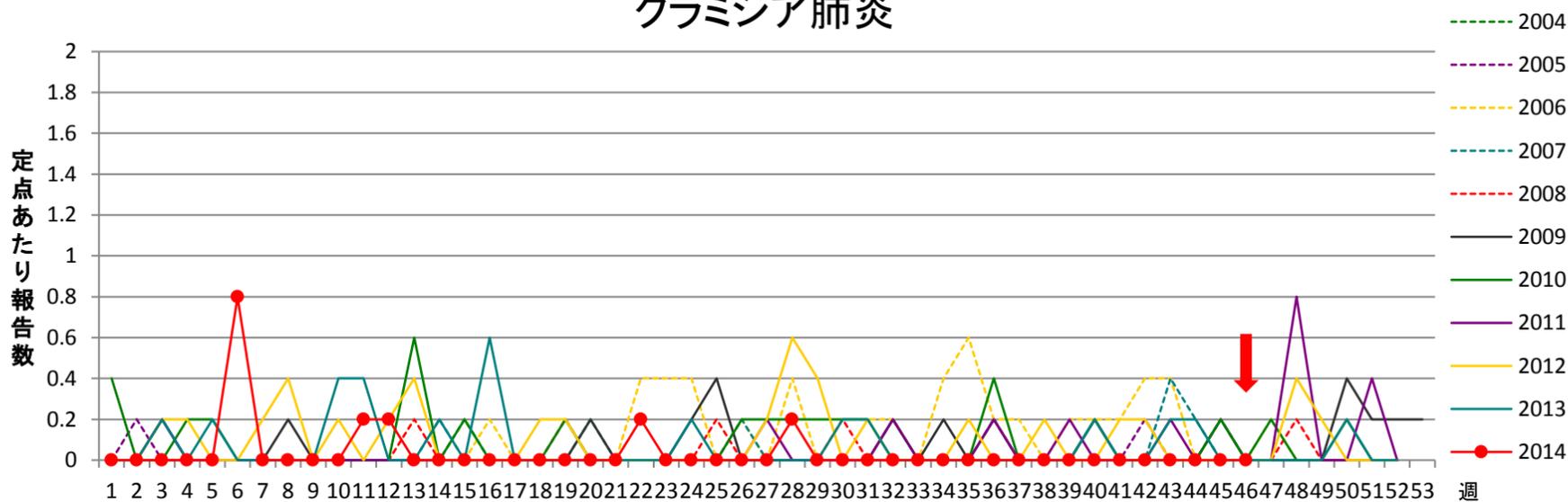
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

